

春来にけらし

(昭和十七年寮歌)

橋爪秀雄君 作歌
李子一雄君 作曲

一

春来はるきにけらし白雪しらゆきの
厚あつき衣ころもや重おもからん
綾羅りょうらの糸いとも綻ほこるびて
靡ろろ々深ふかき五月さつき闇やみ
榆影ゆえい揺めく鼙鼓ここの音ねに
夜霧よぎりに蒸むせる緑酒りよくしゆく汲くみ
挙こぞりて踊おどる榆にれの精せい

二

草茅さうぼうしげき原始林もかげに
聖きよしき焰ほのおを囲かこみつつ
若わかき情熱こころは求もとむれど
人生じんせい誰たれかよく解とかん
ただ真まことなる愛あいに泣なく
寮友すがたの姿きよの清きよければ
春宵しゅんしやうの罪つみと誰たれか言いふ

三

春秋はるあき糸いとも限かぎりなく
文月ふづきの夢ゆめは織女星おりひめの
あはれ手榴ていねの衣ころもかな
山やまの端深はふかくたそがれて
今宵こよひ銀河ぎんがの祭まつり日の
永劫えいこの空そらを眺ながむれば
天空てんくう流ながる星ほし一つ

四

雨月うげつの濁流ながれたうたう滔たう々と
豊川ほうせんに聞きく世よの憂うれい
泥濘でいらうしず沈ましみ真清水みすみずの
流ながる秋ときは見みさるとも
墳墓ふんぼの土どを清きよくせん
戦いくさの庭にわを高たからかに
七ななつの海うみの潮音ちやうおんよ